

羽田航空宇宙科学館設立準備会  
(旧称 J A 8 0 0 1 F U J I 号保存会)  
会報「羽田の青い空」発刊のご挨拶

各位

平素は、私共の運動に多大なご理解、ご協力を賜りまして、たいへん有り難うございます。

私共は、日本初のジェット旅客機でありますDC-8型、JA8001号機の保存運動を原点とし、東京国際空港の沖合展開後、現用の格納庫、具体的には、日本航空羽田ライン整備ビルを取り壊すことなく博物館に転用することを願い、関係方面に働きかけております。

つきましては、跡地の所有者となる東京都、および管理者となる大田区のご英断が切に望まれるところですが、東京都知事、および大田区長にこの件に関して陳情すべくこの4月10日をもちまして、署名運動を開始させていただき運びとなりました。

また、この度、会報「羽田の青い空-羽田航空宇宙科学館設立準備会会報-」を発刊させていただきました。ご高覧いただけますればたいへん幸いです。なお、去る3月18日、私共は、第1回総会を開催し、役員の変更を行いました。新役員は、同封の『会報』にございます通りです。ここにご挨拶かたがたご報告申し上げます。

今後とも私共の運動にお力添えいただけますようお願い申し上げます。  
ご挨拶まで

1989年4月24日

羽田航空宇宙科学館設立準備会  
(旧称 J A 8 0 0 1 F U J I 号保存会)  
会長 齋藤 茂太

事務局 ☎464 名古屋市千種区田代町坂入22-105-102  
☎052-781-0928

印刷済

1988年、7月13日。それは、空を愛する多くの人々にとって、忘れられない日となりました。

それは、この日が、日本のジェット旅客機の第1号であるJA8001号機の保存が止むなくも部分保存となったという事実を誰しもが認めざるを得ない日となったという点で。そして、もうひとつには、この機体の保存に向けられていた大勢の人々の熱意が、その器たる本格的な「航空博物館」の設立に向けて、一層強固なものになったという二つの点においてです。

新A滑走路がオープンして間もない1988年7月13日の東京国際空港。28年前のデビュー当時の華麗な姿に化粧直しされたJA8001号機が、自らの「部分保存記念式」に臨んだのでした。やがて解体されるその雄姿を惜しまぬ人は誰ひとりいなかったことでしょう。

しかし、この日を境に私共は、「JA8001 F U J I号保存会」から「羽田航空宇宙科学館

設立準備会」へと名称を改め、決意新たに、1つの大きな目標へ向かうことを誓ったのでした。

私共は、東京国際空港の沖合展開後、現在の空港敷地内に現用の格納庫を転用した「航空博物館」を設立し、貴重な航空文化を保存、展示しようと願っているのです。もちろん、この運動の原点となった、JA8001号機の修復も、長い展望のもと検討していく所存です。私共の仲間の中には、いずれリタイアする他のDC-8を買い戻そうと真顔になっている者もいます。

職種、年齢、さまざまな人間が集まった私共の会ですが、「夢を夢のままに済ませてなるものか！」と一同奮闘しております。

こうした私共の「夢」を皆様にお伝えし、その「夢」を現実のものとするために、この「会報」を発刊いたしました。

始めに、私共の会の歩みをご紹介します。

## 羽田航空宇宙科学館設立準備会 (旧称JA8001 F U J I号保存会) □ 活 動 の 記 録 □

### ■ 1987年 ■

- 3月20日 日本航空、DC-8型機の1番機JA8001号機廃棄を決定。
- 5月9日 高橋、野川、蛸島、台北にて会談。JA8001号機保存運動開始を決定。
- 5月19日 田中、「朝日新聞」「声」欄に「名機「富士号」保存を考えて」投稿。
- 5月20日 平木、「朝日新聞」「論壇」で「空の貴婦人」解体やめて—政府がひと肌ぬげば保存は可能—と訴える。
- 6月8日 日本航空経営企画委員会、解体を8月まで延期し、保存方法を検討することに決定。
- 7月22日 高橋、村松、古長谷、田中、蛸島が、山地日航社長に面会し、署名簿(社内1177名、社外1079名)を提出し、保存について懇請。同日、今後の運動について話し合い、運輸大臣に対する陳情のための署名運動開始を決定。なお、この日は、JA8001号機が1960年日本に到着した記念日。
- 7月22~24日 鶴殿、平木両氏を世話人に依頼。
- 7月28日 第1回世話人会開催(於 新橋航空会館クラブサロン)。
- 7月30日 全国で署名運動を開始。

- 9月1日 第2回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。会の名称を「JA8001 FUJI号保存会」と決定。
- 9月28日 第35回航空日祝賀会会場(虎ノ門パストラル)に於いて200名の署名を得る。また、この日完成したテレホンカードを販売する。
- 同日 第3回世話人会開催(於 虎ノ門パストラル)。
- 10月8日 第4回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。
- 10月14日 午後1時~2時運輸省にて運輸省航空局阿部次長に面会。橋本運輸大臣宛に「富士号永久保存のための空港敷地使用に関する陳情書と署名」(署名総数6559名、4分冊)を提出。
- 同日 午後2時、運輸省記者クラブにて合同記者会見。その後、第5回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。署名運動は継続することに決定。
- 11月3日 「入間航空祭」にて初の街頭署名。
- 11月5日 テレホンカード第2号1000枚完成。
- 11月6日 第6回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。事務局回収分の署名総数1万名を突破。
- 1988年■
- 1月9日 第7回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。
- 3月11日 第8回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。日本航空整備本部より担当の4氏をお招きし、JA8001号機の現状と保存方法を検討。
- 3月23日 第9回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。署名総数1万5千名を突破。
- 3月30日 鶴殿、平木両代表世話人他、運輸省を訪ね、石原運輸大臣宛に陳情書と署名(9135名)を追加提出。署名総数は15694名、署名簿は都合9分冊となった。
- 同日 第10回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。
- 4月4日 日本航空広報部を訪ね、山地社長宛に署名15694名の写しと、「JA8001号機の補修と保存に関するお願いの件」提出。
- 5月17日 日本航空広報部、整備本部JA8001号機関係者と面談。JA8001号機を見学。
- 5月24日 日本航空広報部と面談。JA8001号機の3部分保存案を了承。
- 同日 第11回世話人会開催(於 羽田コントロール)。
- 6月6日 運輸省および日本航空に対する陳情を取り下げる。
- 6月15日 将来のJA8001号機の保存、修復計画の一助とすべく、鶴殿、野川、近藤、蛸島、同機の現状を記録、撮影。
- 7月13日 日本航空、「JA8001 FUJI号部分保存記念式」開催。
- 同日 第12回世話人会開催(於 羽田コントロール)。会の名称を「羽田航空宇宙科学館設立準備会」と改称。
- 8月5日 鶴殿、平木、野川、蛸島、スミソニアン国立航空宇宙博物館訪問等に関して会談。
- 8月10日 平木、西岡、今後の運動方針について会談。
- 8月16日 西野大田区長に、鶴殿、平木、西岡、近藤が面会。羽田ライン整備ビル保存に関して懇請。
- 9月7日 西岡、野川、蛸島、スミソニアン国立航空宇宙博物館訪問に関して、質問事項などを検討。
- 9月21~25日 野川、スミソニアン航空宇宙博物館訪問。
- 9月28日 羽田航空宇宙科学館設立準備会第1回世話人会開催(於 航空会館クラブサロン)。テレホンカード第3号1000枚完成。
- 10月20日 鶴殿、平木両代表世話人、JA8001号機のものについて日本航空広報部から説明を受ける。
- 12月3日 羽田航空宇宙科学館設立準備会第2回世話人会開催(於 日本アジア航空会議室)。
- 1989年■
- 2月18日 羽田航空宇宙科学館設立準備会第3回世話人会開催(於 航空会館第2会議室)。
- 3月6日 「飛鳥」の保存、誘致について、航空宇宙技術研究所、長洲所長に陳情。
- 3月18日 羽田航空宇宙科学館設立準備会第1回総会開催(於 半蔵門会館)。

# 機関誌発刊に寄せて—スミソニアン雑感—

野川 雅行

(日本航空DC-10運航乗員部, 航空機関士)

DC-8, JA8001号機保存運動の延長として、羽田に航空博物館を設立しようという目的で、「設立準備会」が、新発足し、日本の代表的な航空博物館を建設するという大きな目標に向かい、ゆっくりではあるが、この会は確実に歩みを始めたのである。

技術大国とはいっても、わが国では、DC-8のような大型の航空機や宇宙関連機材の保存展示技術は皆無に等しく、能動的な運動の一環として、1つでも多くの保存展示技術を学ぶため、私は、アメリカはワシントンの「スミソニアン国立航空宇宙博物館」へ赴くことになったのだった。

昨年9月21日、成田を日航機で飛び立ち、日付変更線を越えて、シカゴ経由でワシントン入りし、翌日早々に博物館へ向かったのである。

館内には広々としたスペースの中に、数々の航空機、宇宙船などが、歴史を追って展示され、その偉容は、実に、見る者すべてを圧倒するに十分であった。

持参したカメラ、ビデオ等をフルに使って、目に映る物すべてを撮っていこうとするが、なかなか、すべてが撮りきれず、館内の各セクションを見て回るだけで、何時間もが過ぎてしまうほどの規模なのである。

同館を訪問するに当たり、日本から事前に何度かコンタクトをとっていたので、当日は、技術部門責任者である Senior Curator の Robert C. Mikesch氏に面会することができた。

博識な氏との会談の内容は多岐にわたったが、Mikesch氏は、JA8001号機についても、よくご存じて、

「このDC-8は、日本と、とくにアメリカにとって、歴史的な機体であり、日本人が自らの手で初めて太平洋を渡った民間ジェット機である」と強調されていた。

さらに、氏が語るには、

「このような、歴史的な航空機が部分保存という形でしか残せないのは、たいへん残念であるが、貴国で本格的な航空宇宙博物館を創設するにあたり、FUJ1号のような歴史的航空機を保存しようとする運動が、その基礎となって始まったということは、たいへん意義深いものであり、たいへん感銘を受けた」

とのことであった。数々の会話の中で、私は、この言葉に、今回の訪問の一番の成果を見たような気がしたのだった。

[編集部注：ご執筆の野川氏には、今後、詳細にわたるスミソニアンレポートをご寄稿いただけるとのことです。次号以下をご期待下さい。]

## ■ 通 信 欄 ■

### □ 第 3 回 世 話 人 会 の 記 録 □

1989年2月18日午後2時～5時  
於 新橋航空会館第2会議室  
出席者・青木、鶴殿、近藤、齋藤、佐藤、高橋、  
西岡、野川、平木、渡辺、蛸島

#### [報告事項]

- 総会および懇親会…3月18日(土)午後2時より、半蔵門会館にて開催決定。
- 会計…2月15日現在、157479円赤字。
- ラ整ビル取り壊しの可能性について

#### [審議事項] -ただし、ハ)～ヘ)の詰めは総会に持ち越し-

- イ)「飛鳥」の保存について…近日中に航空宇宙技術研究所に対し正式に願い出る。
- ロ)東京都への働きかけ…都知事と面談の機会をもてるよう努力する。
- ハ)組織について…「世話人」を改め「会員」とし、さらに、「代表」と「運営委員」を選出する。
- ニ)会費制導入について…会の円滑な運営のため会員は会費を納入する。額については、総会で審議、決定する。
- ホ)会則作成について…会則案(事務局作成)を検討。
- ヘ)活動計画の検討…秋に予定のシンポジウムについて、とりあえず、総会で、幹事(準備委員)を選出する。
- ト)機関誌の発行…総会までに「発刊準備号」を事務局が試作する。誌名は、会員から募集するが、とりあえず「羽田の青い空(羽田航空宇宙科学館設立準備会会報)」を仮称とする。
- チ)総会次第作成…①議長ならびに書記選出、②経過報告、③審議、④閉会の辞、懇親会  
(文責 蛸島)

### □ 第 1 回 総 会 の 記 録 □

去る3月18日(土曜日)、半蔵門会館に於いて22名の会員の参加のもと「第1回総会」が開催され、高橋議長の進行により下記のような報告、審議がなされ、ひきつづき、和やかに懇親会が開かれた。

#### [報告事項]

- 会活動の経過…(蛸島)
- 会計…3月15日現在、200891円赤字。ただし、テレホンカード残部処理により、いずれ、解消可能。…(蛸島)

#### [審議事項]

- 会則作成の件…会則(5ページに掲載)が審議、承認され、3月18日より施行。
- 会長、副会長、運営委員、顧問会員他の人選(6ページに掲載)。

#### ○運動方針の件

- イ)日本航空羽田ライン整備ビルの保存のための東京都ならびに大田区に対する陳情、署名運動の開始。
- ロ)展示品の選定、入手、保存に関する調査、研究…入手可能な、また入手の必要のある機体のリスト作成作業。
- ハ)「館」運営方法ならびに保存、補修、展示技術の研究。
- ニ)「館」設立ならびに運営方法に関するシンポジウム開催について検討を進める。
- 会費年額設定の件…年額、個人会員6000円、法人会員30000円とする。

(文責 佐藤)

### □ 第 1 回 運 営 委 員 会 の ご 案 内 □

5月13日午後2時より東京都内で第1回運営委員会を開催します。会場については決定次第ご連絡いたします。

### □ 署 名 運 動 開 始 に つ い て □

「羽田航空宇宙科学館」(仮称)への転用が切望される日本航空羽田ライン整備ビルの保存に向けて、署名運動を開始することが先日の総会で決定されました。

用紙は現在印刷中ですが、東京都知事、ならびに大田区長に対する「日本航空羽田ライン整備ビ

ルの保存、転用による「羽田航空宇宙科学館」設立について」と題する陳情書と署名簿を兼ねたA4版の用紙で、1枚に10名の署名が連記されます。署名運動の開始は4月10日前後を予定いたしておりますが、これに先立ちまして、日本航空の山地社長宛に、本会の齋藤会長よりご挨拶の書面

「羽田航空宇宙科学館」設立についてのご依頼の件」を発送させていただくことになりました。なお、署名用紙は近日中に会員の皆様に発送いたしますので、よろしくお願いいたします。  
(事務局)

## ■ 羽田航空宇宙科学館設立準備会 会則 ■

第1条(名称) 本会は、「羽田航空宇宙科学館設立準備会」(The Steering Committee for Haneda Air and Space Museum)と称する。

第2条(所在地) 本会はその所在地を、東京都に置く。

第3条(目的) 本会は、JA8001号機保存運動の趣旨を受け継ぎ、同機を初めとする航空文化の保存、継承および啓蒙のため、現東京国際空港敷地内に「羽田航空宇宙科学館(仮称)」(以下「館」と記す)を設立することを目的とする。

第4条(活動) 本会は、その目的達成のために次の活動を行う。

- 1 「館」設立のため、その敷地、施設を確保すべく関係方面に働きかける。
- 2 「館」展示品の選定、入手、保存に関する調査、研究を行う。
- 3 「館」の運営方法の検討。
- 4 内外の博物館との交流。
- 5 運営委員会、総会の開催。
- 6 機関誌の発行。
- 7 その他必要な活動。

第5条(会員) 会員は、本会の目的に賛同し、その活動に寄与することのできる個人および法人から成り、その資格は運営委員会の承認を経て与えられる。

第6条(運営委員) 運営委員は、会員の中から互選し、総会の承認を経て任命され、運営委員会を組織する。

第7条(会長および副会長) 会長は、本会を代表し、副会長はこれを補佐するもので、それぞれ運営委員の中から互選され、運営委員会の審議を経て任命される。

第8条(顧問および顧問会員) 本会は、必要に応じ、若干名の顧問および顧問会員を置くことができ、運営委員会がこれを委嘱する。

第9条(会長、副会長、運営委員の任期) 会長、副会長、運営委員の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

第10条(会計、監事、事務局長) 本会は、会計、監事、事務局長の3役を置き、それぞれ、運営委員の中から互選され、運営委員会の審議を経て任命される。

第11条(会計、監事、事務局長の任期) 会計、監事、事務局長の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

第12条(事務局) 事務局長は、必要に応じ、若干名の事務局員を置くことができる。

第13条(運営委員会) 本会の目的達成のため、会長は、必要に応じ、運営委員会を招集し、各種審議を行う。なお、議長ならびに書記は、その都度出席者の中から互選される。

第14条(総会) 本会の目的達成のため、年1回、総会を開催する。なお、会長は、必要に応じ、臨時総会を招集することができる。それぞれ

の議長ならびに書記は、その都度出席者の中から互選される。

附則 本会則は、1989年（平成元年）3月18日より施行する。

第15条（運営費） 本会の運営は、会員の納める会費およびその他の収益をもって維持される。

附則（会費） 会費は、次のように定める。

第16条（会則の改正） 本会則の改正は、運営委員会の賛同を経て、総会の承認を得るものとする。

個人会員	年額	6000円
法人会員	年額	30000円

□ 羽田航空宇宙科学館設立準備会  
(旧称 JA8001 FUJI号保存会) 会員一覧 □

会 長

齋藤 茂太 日本旅行作家協会会長、日本ペンクラブ副会長

副 会 長

鶴殿 純 元日本航空機長  
平木 国夫 作家、航空ジャーナリスト協会幹事

顧 問

北 杜夫 作家  
佐貫 亦男 元日本大学理工学部教授、工学博士  
柳田 邦男 科学総合評論家

顧問会員

岡部 冬彦 漫画家、科学評論家  
兼高かおる 旅行家  
中口 博 東京大学名誉教授、航空ジャーナリスト協会会長

中村 浩美 航空評論家、放送キャスター  
西岡 秀雄 慶應義塾大学名誉教授、大田区立郷土博物館長

藤原 洋 運輸省航空事故調査委員会事務局主席  
航空事故調査官

村松 邦彦 日本エアラインクラブ会長

運営委員

井筒 俊晴 日本航空機長  
岩淵 隆子 日本航空スチュワーデスOG会会長  
古長谷正之 日本航空整備主任  
近藤 晃 写真家、航空ジャーナリスト協会  
佐藤 聡裕 日本航空運輸部  
鈴木幸雄 上智大学理工学部助手、航空ジャーナリスト協会専務理事

高橋 暢也 日本航空航空機関士  
野川 雅行 日本航空航空機関士  
宮本 路朗 日本航空機長  
八重野充弘 公文出版 科学雑誌編集長  
渡辺 顯 航空宇宙技術研究所制御部飛行シミュレーション研究室室長

会 計

青木 勝 写真家、日本航空写真家協会会長

監 事

田中 裕子 日本航空アシスタントパーサー

事務局長

蛸島 直 愛知学院大学文学部講師

□ 編 集 後 記 □

「第1回総会」が無事終了し、ホッとしました。しかし、活動の方はこれからが正念場。頑張らなくてはなりません。

「創刊号」の出来は如何だったでしょう？ 前回の世話会で発刊が決定し、短期決戦で編集、印字に臨みました。誤記、誤字がなければよろしいのですが…。

航空機関士である会員の野川氏には、ご多忙の所を無理にお願いして、「機関誌発刊に寄せて」をご寄稿いただきました。過密スケジュールの現地取材といい、今回の熱のこもる文章といい、「機関誌発刊」というところでしょうか。

駄洒落ついでに、この「機関誌」、いづれは「季刊誌」にしたいものです。花粉飛び交う季節です。気管支などお大事に。

(S.T.)

羽田航空宇宙科学館設立準備会 1989年3月31日発行  
(〒464 名古屋市千種区田代町瓶入22-105-102 #052-781-0928)